

科目名	開講時期	必修・選択	科目区分	単位（時間）	科目責任者
微生物学	1年次	必修	講義	1単位（30時間）	金子 博司 ※
授 業 概 要					
微生物学の歴史を知り、先人の微生物学における貢献に思いを馳せるとともに、基礎となる微生物の特徴、形態を学び、検査法の概要を理解する。2年次の臨床微生物学ⅠⅡ、臨床微生物学実習の理解に寄与できるようにする。					
到 達 目 標					
<ul style="list-style-type: none"> ・微生物の基礎と感染症の歴史、現状を説明できる。 ・微生物を安全に扱う上で必須となる滅菌と消毒、化学療法について説明できる。 ・微生物の培養法、観察法、各微生物における感染の特徴について説明できる。 					
実務経験のある教員					
金子博司：病院での臨床経験を踏まえ、微生物の基礎知識と感染症について概説する。					
回	学 習 内 容				担当教員
1	微生物学の歴史、病原微生物の分類-1				金子 博司 ※
2	微生物学の歴史、病原微生物の分類-2				
3	微生物学の歴史、病原微生物の分類-3				
4	微生物学の歴史、病原微生物の分類-4				
5	微生物の形態と構造、細菌の代謝と発育				
6	細菌の観察法と染色法、細菌の発育条件と培養、細菌培養法-1				
7	細菌の観察法と染色法、細菌の発育条件と培養、細菌培養法-2				
8	遺伝・変異、プラスミド、感染症と遺伝子診断				
9	滅菌および消毒				
10	化学療法とワクチン-1				
11	化学療法とワクチン-2				
12	病原体別感染症の特徴、				
13	正常細菌叢、病原性と抵抗力、細胞内と細胞外寄生性菌				
14	感染とバイオハザード、医療関連感染（HAI）と新興感染症				
15	微生物と生体防御機構、微生物学講義のまとめ				
学 習 方 法					
・教科書及びスライド資料を用いて講義する。					
評 価 方 法					
<ul style="list-style-type: none"> ・適時小テストを実施する。 ・遅刻や欠席等で小テストを受験しなかった場合は0点とするが、正当な理由がある場合は追試験を実施する。 ・定期試験（80％）及び小テスト（20％）により評価する。 ・再試験は小テストの内容を合わせて出題し、これを評価する。 					
先 修 科 目					
教科書、参考書					
[教科書] 臨床検査学講座 臨床微生物学 医歯薬出版 [参考書] 病気がみえる 免疫・膠原病・感染症 MEDIC MEDIA					